

第 7 章 教育研究等環境

1. 現状の説明

(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

- ・ 学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化
- ・ 校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画

〈1〉 大学全体

《大学キャンパス・ホスピタル再編事業について》

- 1) 法人本部の大学キャンパス・ホスピタル再編事業事務局は、各地区で計画される中長期の教育研究環境整備計画案の実行を組織的に支援している。各キャンパス周辺の土地・建物等の取得に当っては、取得の必要性を精査し、取得の手続きを支援している。
- 2) 2013（平成25）年に迎えた創立175周年記念事業の一環として、本郷キャンパスにおいて、キャンパス機能・病院機能の再編を進めている。医学部附属順天堂医院の建て替えに続き、順次大学用途建物の建て替えに着手する計画である。大学本部、大学院や医学部の教学部門をセンチュリータワーに集約するとともに、分散移転している医学部基礎講座、臨床講座・研究室を新研究棟（A棟）に集約する予定である。
- 3) 再編事業においては、建物の解体を伴うため、施設内の機能を他の建物へ移転させ（原形質流動）、病院の稼働率維持と教育研究活動の継続性を確保することを方針として定めている。
- 4) 同事業により、本学の財務構成が悪化しないよう、事業原資は手許資金で賄う方針である。
- 5) 医学部附属順天堂医院については、世界に誇れる時代をリードするエコホスピタルの完成を目指し、B棟高層棟（免震建物）が2013（平成25）年12月に竣工し、B棟低層棟新築工事、D棟新築工事、C棟新築工事に着手している。本郷キャンパスの教学部門については、センチュリータワーを第1教育棟として整備するほか、新規に取得した建物を第2教育棟として利用することを計画している。
- 6) B棟高層棟は、日本の建築環境総合性能評価システム（CASBEE）評価で最高位のSランク基準で建築した。また、米国の建築環境性能評価システム（LEED）において、病院では国内初のゴールド認証を受けるべく申請中である。

（資料7-1 順天堂ホームページ 「順天堂医院新病棟がオープン～安全面、環境面に高い先進性～」）

《施設・設備の維持・管理について》

- 1) 教育理念・目的に基づく教育研究を行うために、学生や教職員等にとって安全・安心で利用しやすい施設・設備を整備し、適切な管理を行い、キャンパス・アメニティを向上させるということを、教育研究環境整備の基本方針としている。
 - (1) 建物の耐震化は安全・安心の基本的要素であり、耐震診断により耐震性能が不足すると判定された建物については順次更新する。さらに天井等の非構造部材の耐震化についても現状を再評価し、必要に応じて対処する。
 - (2) 学生数の増加、研究の高度化・多様化に対応する教育研究施設の整備に向け、本郷キャンパスの教育・研究棟の再整備に着手するほか、学部間の相互利用など既存施設の有効利用を図る。
 - (3) 日常的にキャンパス・アメニティを支える施設の維持管理は、外部委託の活用を基本とし、専門性の高い設備の運転管理、保守点検等により、快適な学習、研究、医療環境を提

第7章 教育研究等環境

供するとともに防災機能の維持、省エネルギーの実現を目指す。

- 2) 「省エネルギー法」に基づき、CO₂の排出量を減らすために省エネルギー推進委員会を設置し、省エネルギー推進活動に取り組んでいる。本郷キャンパスは東京都の「総量削減義務と排出量取引制度」の適用を受けており、対基準排出量8%削減を達成するために、設備投資計画を含む地球温暖化対策計画書を作成している。2015（平成27）年度から東京都の削減目標が17%に強化されるため、照明のLED化、動力・熱源機器の高効率化などハード面の対策を進めるとともに、全学的に教職員の省エネ啓蒙に努めている。

《教育研究環境の整備について》

- 1) 本学が国際的な研究拠点として存在感を示すためには、優れた研究成果を持続的に生み出す環境整備が不可欠である。実験の効率性や結果の信頼性は使用する研究装置の性能に大きく左右されるため、常に最先端の装置を整備する必要がある。しかし、高性能な研究装置は高額であり、扱える専門スタッフが限られている。したがって、本学は、文部科学省の私立学校施設整備費補助金、私立大学等研究設備整備費補助金及び戦略的研究基盤形成支援事業に採択された、共同利用・共同研究に供する大型及び最先端の装置を、専門スタッフが常駐する研究基盤センター、各研究センターに重点的に整備することを予算編成方針に盛り込み計画的に整備を行っている（資料7-2 平成25年度予算編成方針）。

《ICT教育研究基盤整備について》

- 1) ICT化教育研究基盤整備に関する方針を「順天堂大学ICT化戦略」として定めている。グローバルな視点から積極的に社会にかかわり、世界的な研究・教育・臨床拠点として、次世代をリードする諸活動を展開するために基盤整備を実施している。

（資料7-3 順天堂大学ICT化戦略）

〈2〉 医学部

- 1) 教育研究環境整備に関する方針を次のとおり定めている。
 - (1) 生命科学や医療技術の急速な進歩に対応した、医学教育を実施すべく、最先端の教育研究環境を充実させる。
 - (2) 教育研究環境整備として、教務委員会が中心となり、各講座・研究室から申請された学生教育用機器について審査・選定を行い、教授会において審議される。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 教育研究環境整備に関する方針を次のとおり定めている。
 - (1) 老朽化した施設・設備などは年次計画を立て、順次、修繕・更新を図る。
 - (2) 教育研究用機器については各教員からの申請により、各学科内での審査・選考を経て、教授会で審議のうえ、新規導入を図る。

〈4〉 医療看護学部

- 1) 教育研究環境整備に関する方針を次のとおり定めている。
 - (1) 教育環境整備として、教務委員会が中心となって、AV機器、PC、実習用機器等は年次計画を立て、老朽化した物から順に新しい物に交換する。
 - (2) 研究環境整備として、研究委員会が中心となってコピー機、プリンターなど共用できる機器を整備するとともに、共同・奨励研究費制度を設けて特に若手教員の研究を奨励する。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 教育研究環境整備に関する方針を次のとおり定め、教授会を通して明確にしている。

第7章 教育研究等環境

- (1) 学部開設当初（2008（平成 20）年度）の施設・設備・機器の整備を受け、その後の学年進行に伴い、設備・機器・消耗品の追加・補充を段階的に行う。
- (2) 遠隔授業を増やすべく、遠隔授業が可能な教室を整備する。
- (3) 教育機器装置は教務委員会、研究機器装置は研究委員会において、毎年公募し、審査・査定を行い、教授会で審議する。

〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 教育研究環境整備に関する方針を次のとおり定めている。
 - (1) 研究委員会が中心となって共用機器を整備し、研究基盤センターにて共同利用する。
 - (2) プロジェクト研究費等の研究費助成を推進し研究の活性化を図る。

〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 教育研究環境整備に関する方針を次のとおり定め、教授会を通して明確にしている。
 - (1) 老朽化した施設・設備などは学部と同様に年次計画を立て、順次、修繕・更新を図る。
 - (2) 教育研究用機器については各教員からの申請により、教育研究委員会の審査・選考を経て、研究科委員会で審議のうえ、新規導入を図る。

〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 教育研究環境整備に関する方針を次のとおり定めている。
 - (1) 研究科委員会が中心となって、AV 機器、PC 等は老朽化した物から順次入れ替え、整備する。

（2）十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【評価の視点】

- ・校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成
- ・校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保

〈1〉 大学全体

《大学キャンパス・ホスピタル再編事業について》

- 1) 本郷キャンパスに関しては、2009（平成 21）年に購入したセンチュリータワーを第 1 教育棟として改修し、医学部 135 名収容の教室を 4 室（ラウンドシェル型 2 室、平床型 2 室）、大学院教室を 13 室、形態系実習室を 1 室、マルチメディア教室を 1 室、ラーニングcommons を 4 フロアー等教育環境の整備を行った。

- 2) 平成 23・24・25 年度の不動産取得の実績は下表の通り。 （単位：㎡）

年度	土地面積	建物延べ面積
2011（平成 23）年度	2,287.02	7,897.78
2012（平成 24）年度	11,090.49	7,594.70
2013（平成 25）年度	11,467.11	5,892.90
3 年間合計	24,844.62	21,385.38

- 3) 平成 23・24・25 年度の再編事業の進捗状況は下表の通り

2011（平成 23）年度	・新病棟（B 棟）新築工事に着手
2012（平成 24）年度	・4 号館に増築する D 棟の建物設計、施工会社選定 ・センチュリータワー低層階を教学用途として改修 ・浦安病院増床の許可を得、近隣土地・建物を取得し、新病棟

第7章 教育研究等環境

	の建築設計を行った
2013（平成25）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・B棟高層棟が竣工 ・D棟新築工事に着工 ・3号館跡に建設するC棟の実設計が完了 ・上空専用通路竣工 ・7・8号館を建て替え新研究棟（A棟）を建設する計画に着手 ・センチュリータワー高層階を法人本部として整備 ・日本医学教育歴史館（センチュリータワー17階）の施設整備工事 ・さくらキャンパスのグラウンド人工芝化、水泳プールの屋内化工事

（資料7-4 平成23年度事業報告書 「22. 創立175周年記念事業について」）

（資料7-5 平成24年度事業報告書 「21. 創立175周年記念事業について」）

（資料7-6 平成25年度事業報告書 「19. 大学キャンパス・ホスピタル再編事業計画について」）

《大学設置基準上必要な校地・校舎について》

1) 大学全体では、大学設置基準上必要校地（63,364 m²）に対し（253,606 m²）で4.00倍の校地を保有しており、同基準上必要校舎（36,595 m²）に対し（92,580 m²）で2.53倍の校舎を保有している。大学全体はもとより各キャンパスにおいても、同基準を大幅に上回っている。各キャンパスの状況は次のとおりである。

(1) 本郷キャンパス（医学部）の校地は、同基準（37,364 m²）に対し（41,659 m²）で1.11倍を保有している。校舎は、同基準（18,250 m²）に対し（62,087 m²）で3.40倍を保有している。5の教室（2年生以上に1学年1教室）、5の演習室、2のラーニングコモンズ（学生用の共有自主学習スペース）が敷地内に整備されており、都心部の立地、附属病院を併設している点を考えると十分に基準を満たしていると言える。

(2) さくらキャンパス（スポーツ健康科学部）の校地は、同基準（13,200 m²）に対し（181,696 m²）で13.76倍を保有している。校舎は、同基準（9,090 m²）に対し（14,221 m²）で1.56倍を保有している。19の講義室（学部および大学院）、20の演習室、4の学生自習室が整備されている。

(3) 浦安キャンパス（医療看護学部）の校地は、同基準（8,000 m²）に対し（12,000 m²）で1.50倍を保有している。校舎は、同基準（5,123 m²）に対し（8,518 m²）で1.66倍を保有している。2のマルチメディア教室・CALL教室を含む11の教室、9つの演習室を敷地内に擁し、800名の学生に対する教育環境が整えられていると言える。

(4) 三島キャンパス（保健看護学部）の校地は、同基準（4,800 m²）に対し（18,251 m²）で3.80倍を保有している。校舎は、同基準（4,132 m²）に対し（7,754 m²）で1.88倍を保有している。6の講義室、12の演習室、2の自習室が整備されている。

《施設・設備の維持・管理について》

1) 本郷キャンパスにおいては、キャンパス再編事業計画で、大学事務部門、基礎・臨床講座研究室が入居する建物が取壊しとなるため、現存の大学用途建物及び周辺に新たに取得した建物等に分散移転を進めている。仮移転のため、建て替え期間中においても、教育研究環境を

維持することを第一に移転先の施設整備を進めている。再編事業完了時には教育研究環境が整った新研究棟に各研究室を再度集約するとともに、耐震性能が不足する建物の更新も完了する予定である。

- 2) 建築基準法、消防法等による建築、設備に関する法定点検・報告はもとより日常的な保守点検による故障の回避、安全の確保に努めている。空気環境測定、飲料水水質検査等、基礎的な衛生環境測定により一定水準の環境維持に努めている。また、LCC（ライフサイクルコスト）データを活用した中長期修繕計画のもと、老朽化に起因する故障あるいは機能低下の恐れがある設備機器の計画的更新を進めている。

《教育研究環境の整備について》

- 1) 教育・研究装置設備については、研究基盤センター、各研究センターの装置を重点的に、2011（平成 23）年度は共焦点レーザスキャン顕微鏡等 8 点を総額 381,985 千円、2012（平成 24）年度は再生医療細胞調整装置等 13 点を 375,198 千円、2013（平成 25）年度は 17 点を総額 1,094,963 千円で整備した（資料 7-7 研究施設の概要 2013）。また、2011（平成 23）年度から 2013（平成 25）年度にかけてセンチュリータワー ICT 化教育基盤整備事業を開始し、第 1 期工事から第 6 期工事まで総額 825,848 千円の投資を行った。その他の ICT 関連投資として、2012（平成 24）年度のマルチメディア教室バーチャルリアリティ・オンデマンド型看護教育システム整備事業に 21,315 千円、2013（平成 25）年度のマルチメディア講義のデジタル・ハイビジョン化及び講義自動収集配信システム導入等 4 件の事業に対し総額 197,820 千円を投資した。施設関係の整備については、2011（平成 23）年度に 7 号館アスベスト除去工事に 5,670 千円、2012（平成 24）年度はセンチュリータワーガラス屋根飛散防止フィルム貼り工事等 2 件の工事に対し総額 13,729 千円、2013（平成 25）年度は医療看護学部防災工事等 2 件の工事に総額 22,943 千円をかけて耐震補強工事を行った。以上、2011（平成 23）年度から 2013（平成 25）年度にかけて総額 2,939,471 千円の投資を教育研究環境の整備のために行った。なお、いずれの装置、設備、工事も文部科学省の助成を受けている。

（資料 7-8 平成 23・24・25 年度教育・研究装置及び教育基盤・研究設備一覧）

《ICT 教育研究基盤整備について》

- 1) 本郷キャンパスでは、センチュリータワーを中心として大教室、中教室、小教室に AV 設備を完備している。また、マルチメディア教室、形態系実習室、ラーニングコモンズを設置している。各キャンパス相互に遠隔講義が実施できる遠隔講義システムを導入しており、資料配布システムの導入、センチュリータワー及び 10 号館の全館無線化によるモバイル対応、Gmail 導入によるクラウド活用、更に SNS 利用を積極的に行っている。
- 2) さくらキャンパスでは、大教室、中教室に AV 設備を完備している。マルチメディア教室を設置している。キャンパス間遠隔講義システムを導入している。
- 3) 浦安キャンパスでは、大教室、中教室、実習室に AV 設備を完備している。マルチメディア教室を設置し Call システムを導入している。キャンパス間遠隔講義システムを導入している。
- 4) 三島キャンパスでは、大教室、中教室、実習室に AV 設備を完備している。マルチメディア教室を設置し Call システムを導入している。キャンパス間遠隔講義システムを導入している。

〈2〉 医学部

第7章 教育研究等環境

- 1) 本郷キャンパスにおいては、学年毎に教室を割当てること、自分の教室という意識で学習させている。更に、キャンパス・アメニティを高めるために、学生が教室等を自由に利用できるように配慮し、試験時期には早朝から夜遅くまで教室を開放している。
- 2) 本郷キャンパスの実験実習室としては、病理系実習室・生化系実習室・生理系実習室・解剖実習室がある。また、マルチメディア教室を設置しており、コンピューター実習をはじめ、高解像度の画像が必要となる、内科学・病理学・組織学等の授業で利用されている。また、CBT (Computer-Based Testing) の試験会場としても活用している。
- 3) 各学年の学生にメールアドレスを配付し、日常的に利用できる環境を整えている。
- 4) クラブ活動が盛んで、30 クラブが活動しており、学内に自治会・クラブ部室等を整備し、活動の便宜を図っている。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 本学部の敷地面積は、215,171m²で、校舎面積は2,745m²である。講義室は300席の大教室2室、200席の中教室4室、100席の小教室9室を確保している。更にLL教室、計算機実習室及び演習室や自習室などがあり、スポーツ健康科学部4学年定員1,320名、医学部1年生、大学院生を教育するのに十分な学習環境を整備している。
- 2) 屋内体育施設は、第1体育館（延床面積7,332m²）にバレーボール、バスケットボール、体操、剣道、柔道の各種目専用体育館及びトレーニング場、多目的ホールを配置している。2008（平成20）年度には第1体育館全施設に空調設備を完備した。その他、多目的用途の第2体育館（延床面積1,249m²）がある。
- 3) 屋外運動施設としては、日本陸上競技連盟第三種公認陸上競技場（23,853m²）、人工芝サッカー場（10,168m²）、人工芝ラグビー場（9,006m²）、ハンドボール練習場（1,944m²）、プレイグランド（14,109m²）、ゴルフ練習場（1,394m²）、投擲練習場（4,228m²）、テニスコート（8面5,001m²）、上屋付温水プール（911m²）を備えている。なお、2013（平成25）年度にサッカー場の人工芝の張替、ラグビー場の人工芝化工事を実施し、運動施設の更なる充実を図っている。
- 4) 図書館は、3階建て延べ面積1,205m²で、1階に開架書庫、2階・3階に閲覧室を設けている。
- 5) 駐車場はキャンパス内に学内外利用者共用のスペース220台分のほか、来客専用11台分が確保されている。2013（平成25）年度にはキャンパスに隣接した農地を取得し（9,561m²）101台分の駐車場を整備、運用を開始した。また、駐輪場は、2008（平成20）年度に取得した隣接地（3,431m²）に整備し、キャンパス構内の駐輪場機能を当該隣接地へ移転した。
- 6) 2013（平成25）年度に本学部のOB会「啓友会」より新しく啓友会館（鉄骨2階建て延床面積361m²）の寄贈を受けた。1Fは売店、ロビースペース、2Fは会議室が設けられており、学生・教職員による勉強会・小会議等に使用している。
- 7) 2014（平成26）年3月にネットワークサーバーを更新すると同時に、無線LANアクセスポイントの更新、老朽化したネットワークケーブルの更新を行い、インターネット環境の改善を図った。また、マルチメディア教室においてはサーバー、端末の更新、シンクライアントシステムを導入し、11番・12番教室においては教卓システムを更新し授業の録画・配信が可能なシステムを導入するなど、教育・実習環境の更なる充実を図った。
- 8) 防災上の自衛組織・訓練は「さくらキャンパス消防計画」に則り実施している。又、警備体制は、委託業者に24時間警備を委託し、庶務課管理の下で展開されている、緊急時の対応

第7章 教育研究等環境

については緊急連絡網による連絡体制を確立している。

- 9) キャンパス内の施設・設備の維持・管理・運営はさくらキャンパス事務部が担当している。また、施設・設備の衛生確保や一般廃棄物、産業廃棄物、廃液、特別管理産業廃棄物の処理は専門業者に業務委託し適正に処理されている。

<4> 医療看護学部

- 1) 教室は250名収容の大教室が3室、110名収容の中教室が4室、40名および80名収容の小教室が各1室ある。また12~18名収容の演習室が10室、さらにマルチメディア教室が3室あり、4学年定員800名の学生を教育する学習環境が整えられている。
- 2) 自然系実習室、基礎看護実習室、成人看護／小児看護実習室、母性看護／助産実習室、精神看護実習室、在宅看護／公衆衛生看護実習室をそれぞれ整備しており、学内での実習／演習の実施に供している。
- 3) 2011(平成23)年度、無線LANアクセスポイントを再整備し、登録制によりキャンパス内全フロアでインターネットやeラーニング等へのWi-Fiアクセスが可能となった。また2012(平成24)年度、有線LANのネットワーク機器をギガ対応にし動画等の通信量の多いコンテンツに対応できるよう整備した。
- 4) 学生全員にクリッカーを貸与し、大教室3室にクリッカーによる出席管理、アンケートなどが可能な授業収録システムを整備している。2013(平成25)年度には同システムを操作パネル内に組み込み操作性も改善した。また実習用に使用するポータブルな移動式の授業収録システムも2012(平成24)年度、2013(平成25年度)に1台ずつ増設し、合計2台整備した。
- 5) マルチメディア教室のパソコンを2012(平成24)年度81台から103台に増設し、パソコンスペックも最新のものに更改した。これにより他のマルチメディア教室含め191台を擁し、何れも授業で使用する時間以外は学生に開放している。また図書館にも学生開放用パソコンを27台整備し学生に開放している。
- 6) 2013(平成25)年度には、各教室、実習室、演習室にWeb会議システムやタブレット端末を導入し学生全員が討議に参加できるグループ演習システムを整備している。また33番教室をスタジオ化し、シミュレータ人形と教員・学生によるバーチャル・リアリティ空間をWeb会議システムにより配信することができる。
- 7) 遠隔授業システム及び4学部6附属病院間のTV会議システムを導入している。
- 8) 運動施設は体育館とテニスコート4面が整備されており、課外活動に利用されている。
- 9) 施設・設備の維持管理及び清掃や産業廃棄物の処理は専門性が高いため業務を外部委託している。

<5> 保健看護学部

- 1) 敷地面積は19,040㎡、校舎(耐震構造)面積は8,472㎡であり、校舎内施設は1Fに学部長室・事務室・保健室・食堂・会議室・学生相談室・非常勤講師室・自治会室・11番教室・ラーニングcommons、2Fに図書室・男女ロッカー・21、22、23番教室・マルチメディア室、3Fに実習室2室・31番教室、4Fに演習室(1~13)・41番教室・共同研究室2室、5Fに研究室(1~10)・共同研究室(1~4)を配置している。その他駐車場(収容台数38台(身体障害者用2台含む))、駐輪場(収容台数282台)がある。
- 2) 大学院医療看護学研究科(修士課程)の別地開講に向けて、遠隔配信可能な大学院教室の整備、PC・プリンター備え付けの大学院生自習室の整備を進めている。

第7章 教育研究等環境

- 3) 主な先端システム・教育機器には、遠隔授業システムおよび4学部6附属病院間のTV会議システム、3F実習室2でのWEBカメラシステム、クリッカーによる出欠管理・小テスト解答システムなどがある。
- 4) 各領域で授業、演習、実習等で必要な教育機器を整備し、実習委員会を中心に管理している。教育機器取扱い申し合わせ事項を作成し、学内での取扱い、貸出し等についてルールに則って運用している。(資料7-9 教育機器の使用に関する申し合わせ事項)
- 5) 臨地実習指導の現場で使用できるデジタルテキストインストール済のタブレット端末を24台整備して、貸出しを行っている。
- 6) 研究室・図書室以外でもキャンパス内の複数のエリアに情報コンセントが設置され、自由に検索が可能になっている。
- 7) 教育用に供する情報処理機器は、マルチメディア教室を含みパソコン167台を擁し、何れも授業で使用する時間以外は学生に開放している。また、マルチメディア教室のパソコンの一部は語学用CALLシステム機を兼ねている。
- 8) 学生のためのキャンパス・アメニティは、学生生活実態調査アンケートなどを基に、随時改善を行っている。学年進行に伴い、食堂内テーブル・イスの増設、昼食時間帯における4階共同研究室の飲食スペースとしての整備・開放、自販機（ドリンク・パン・アイス）増設、売店の設置、屋外テラステーブル・イスの増設を行った。
- 9) 運動環境として、多目的グラウンドの人工芝化を行い、テニス、フットサル、バレーボール、ノルディックウォーキングなどが行われている（人工芝スペースはテニスコート3面分）。
- 10) 健康総合大学の一学部として、地球環境保全のための省エネ施設・設備により、エネルギー使用の削減、ゴミの減量化を実践している。ゴミはフロア毎の分別収集を実行しており、廃棄物処理についても適正な処理を行っている。キャンパス内は全面禁煙である。
- 11) 三島キャンパスはバリアフリーの施設であり、車いす利用者用のトイレも校舎内各階に設けられている。
- 12) 施設・設備等を維持・管理するための責任・連絡体制は、三島キャンパス施設長（学部長）の統括の下に確立しており、三島キャンパス事務室及び委託業者で必要な業務を行っている。

〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 専用の教育施設として、本郷キャンパス（センチュリータワー）に10室を確保している。そのうち4室には、遠隔地の大学・研究機関等と会議・講義が実施できるようTV会議システムを設置している。また、センチュリータワーには、10台のPCと自習スペースを供えたラーニングコモンズを用意している。
- 2) 大学院生が研究に利用することができるさまざまな機器を備えた10の研究センター（研究基盤センター、アトピー疾患研究センター、老人性疾患病態・治療研究センター、疾患モデル研究センター、環境医学研究所、感染制御科学研究センター、スポーツロジックセンター、先導的がん医療開発研究センター、ゲノム・再生医療センター、スポーツ健康医科学研究所）を設置している。

〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) さくらキャンパスに講義室3室・実習室1室、本郷キャンパスに講義室3室を確保している。自習室は、さくらキャンパスに2室あり、本郷キャンパスでは、ラーニングコモンズが整備されており、自習とカンファレンスに活用されている。

第7章 教育研究等環境

- 2) 研究施設として、2006（平成18）年12月に文部科学省補助金により「スポーツ健康医科学研究所（ハイテク・リサーチ・センター）」を新築し、子どもの健康づくりのためのスポーツ医科学研究拠点の形成をテーマに、発育発達期にある子どもたちの身体活動・運動が疾病予防や改善、および心身の障害に亘る健康に対しどのような影響を与えているかなど、医学研究科・医療看護学研究科も参画した最先端の研究開発プロジェクトを実施している。
- 3) 研究施設の多くは学部と共用であるが、付設のスポーツ健康医科学研究所の設備・備品類は利用者登録により大学院生が自由に利用することができる。
- 4) 分析機器等として、LC/MS/MS（質量分析装置）、遺伝子配列解析装置（DNA シークエンサー）、RT-PCR（リアルタイム遺伝子増幅装置）等が導入されており、高度な研究レベルを維持している。

〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 浦安キャンパスでは医療看護学部と共用して講義室・演習室を使用している。その他に大学院生用の自習室1室を用意しており、10台のPCを設置し研究や論文作成のためのスペースを確保している。
- 2) 本郷キャンパスにて開講する科目があるため、本郷キャンパス内に、本研究科生用の自習室1室を用意している。

（3）図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

【評価の視点】

- ・ 図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性
- ・ 図書館の規模、司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境
- ・ 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備

〈1〉 大学全体

- 1) 図書館は、東京都文京区にある医学部・医学研究科の本郷キャンパス図書館（以下、本郷）と千葉県印西市にあるスポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科のさくらキャンパス図書館（以下、さくら）、千葉県浦安市にある医療看護学部・医療看護学研究科の浦安キャンパス図書館（以下、浦安）、静岡県三島市にある保健看護学部の三島キャンパス図書館（以下、三島）から成る。
- 2) 本学医学部附属病院について、順天堂医院以外の静岡病院、浦安病院、順天堂越谷病院、順天堂東京江東高齢者医療センター、練馬病院には、それぞれの病院図書室を置いている。本郷が中心となってサービスを支援している。
- 3) 年間貸出冊数は、2011（平成23）年から大きな変化なく推移し利用されている。近年電子ジャーナルの利用環境の整備に伴い、洋雑誌プリント版は減少しているが、電子化が進んでいない図書や和雑誌は変化なく利用されている。
- 4) 電子ジャーナルは、本郷が一括して利用の契約を行っている。4キャンパスをはじめ各附属病院からも利用できる環境を整備している。
- 5) 図書館の運営は、各図書館運営委員会を設置し、図書館の運営に係る事項の決定や雑誌・図書等の選定に当たっている。
- 6) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況は次表のとおりである。

第7章 教育研究等環境

(資料7-10 大学基礎データ 表18「図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況」)

キャンパス	図書冊数	定期刊行物の種類	視聴覚資料の所蔵数
本郷	154,369	3,297	197
さくら	109,595	1,490	1,464
浦安	33,152	170	1,152
三島	11,964	122	495
合計	309,080	5,079	3,308

7) 過去3年間の図書受け入れ状況は次表のとおりである。本郷、さくら、浦安の図書受け入れの減少は、洋雑誌プリント版から電子ジャーナルへの移行によるものである。電子ジャーナルは、36,378種類となっている。

キャンパス	2011年度	2012年度	2013年度
本郷	1,216	596	708
さくら	955	920	751
浦安	517	876	727
三島	2,466	1,253	1,831
合計	5,154	3,645	4,017

- 8) 図書や雑誌の所蔵確認や貸出返却等の図書館業務は、4キャンパス図書館が連携してネットワークを構築している。
- 9) 図書の選定に当たっては、各学部の教員要項や医学部の基礎・臨床統合講義集に掲載の図書を購入し、授業等の活用と予習復習ができるよう整備し、サービスに努めている。
- 10) 電子ジャーナルの購入は定期的なアンケート調査に基づき、利用頻度や購入価格を考慮し新規ジャーナルの収集に努めている。
- 11) 電子ジャーナルの購入価格は、資料購入費の約9割を占め、毎年7%前後値上がりしている。電子ジャーナルの購読は、NPO 法人日本医学図書館協会と大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)に加盟し共同購入方式を活用し、適正価格で購入を図っている。
- 12) 各キャンパスの図書館の規模・設備等は、以下の通りである。

キャンパス	延床面積 m^2	複写機台数	端末機台数
本郷	1,485.24 m^2	14	24
さくら	944.38 m^2	3	21
浦安	615.59 m^2	3	28
三島	373.16 m^2	2	30

(1) 本郷キャンパス

- ① 1階には、利用者用端末とセミナールーム、新着雑誌書架と閲覧席および事務室がある。2階には、リフレッシュルーム、個人用キャレルを配した閲覧室が設置してある。地下は、地下1階に図書と洋雑誌、地下2階には、和雑誌と洋雑誌を配架している。
- ② 図書館入口には、入・退館システムを設置している。2階、1階、地下1階には電源と無線LANを設置し、利用者持参のPCが利用できる環境が整備されている。

(2) さくらキャンパス

第7章 教育研究等環境

- ①3階建ての独立棟で、1階には、書庫、グループ・ルーム、事務室がある。2階には新着雑誌、視聴覚資料、参考書、辞書類、一般図書と閲覧席、受付カウンター、ラーニング・コモンズ、事務室がある。3階には学生図書、専門図書、閲覧席がある。2014（平成26）年3月には、2階の書棚を低くし、入口から全体を見渡せるよう改装した。
- ②図書館入口には持ち出し防犯ゲートシステムを設置している。図書館全館に無線LANを設置し、利用者持参のPCが利用できる環境が整備されている。
- ③1階グループ・ルームには、大型ディスプレイを備えたマルチメディア装置を設置している。
- ④教員・学生に要望調査を実施し、図書・学術雑誌・電子情報等の選定の参考としている。
- ⑤地域への開放については、公共の図書館の紹介状と、本人確認書類を持参することにより、館内閲覧と複写サービスの利用を可能としている。利用方法について、ホームページ上で公開している。

(3) 浦安キャンパス

- ①図書館は、正門脇の校舎の1・2階部分にある。1階には、一般教養図書・新書・新着雑誌・視聴覚資料・辞書類・新聞の書架と、閲覧室、事務室があり、2階には、専門図書、製本雑誌を移動式書架に収納している。
- ②1階の閲覧スペースには、閲覧席60席、個人用キャレル15席（全席PC完備）を設置している。AV室には、個人視聴ブース3台、グループ視聴席6席、個人用キャレル9席、大型ディスプレイ、DVD・VHS再生機を設置している。
- ③2階にも、AV室があり、グループ視聴席10席、個人用キャレル15席、大型ディスプレイ、DVD・VHS再生機を設置している。2階の閲覧スペースは3箇所あり、閲覧用席24席、個人用キャレル10席、個人用ブース12席、PC用10席を設置している。
- ④看護学生が臨地実習で利用している順天堂医院、浦安病院、越谷病院、高齢者医療センター、練馬病院には実習用図書を設置している。

(4) 三島キャンパス

- ①図書館は校舎2階にある。入口付近にはカウンターと事務室があり、奥には雑誌架・書架・移動書架がある。書架の傍らに学習用机、閲覧用椅子を設置している。
- ②図書館内には30台のPCが設置されており、うち2台が検索用、3台が職員業務用となっている。学習用机には電源があり、そして校舎全体に無線LANが設置されているため、利用者持参のPCを使用することができる。
- ③災害時の安否確認のため、学生が入館時に自身の在室を示すマグネットを貼り付けるホワイトボードを設置している。
- ④司書の資格を持つ嘱託職員1名を置き、図書委員会と連携した業務が行われている。環境整備もきめ細かく行っている。

13) 2013(平成25)年度のスタッフ配置及び利用状況は次表のとおりである。

キャンパス	専任スタッフ	非常勤スタッフ	開館日数	入館者数	貸出冊数(1日平均)
本郷	5(4)	3(1)	342	97,948	5,989(17.5)
さくら	2(2)	2(2)	268	61,073	4,475(16.7)
浦安	1(1)	2(0)	251	44,647	6,758(26.9)
三島	1(1)	0(0)	281	51,462	5,333(19.0)

第7章 教育研究等環境

※スタッフ数の()は司書数

14)開館時間は、次表のとおりである。

キャンパス	平日	土曜日	第二土曜日	日曜日
本郷	8:30-23:00	8:30-19:00	8:30-17:00	13:00-17:00
さくら	9:00-22:00	9:00-17:00	休館	休館
浦安	9:00-21:00	9:00-17:00	休館	休館
三島	9:00-20:00	9:00-13:00	休館	休館

15)閲覧室の座席数は、次表のとおりである。

キャンパス	座席数	座席数/収容定員(%)
本郷	186	14.7
さくら	156	10.8
浦安	194	22.9
三島	67	13.7

16)利用者には「図書館利用カード」を作成し、入館および貸出に供している。各キャンパスで共通に利用でき、貸出冊数、貸出期限は一人5冊以内、2週間以内である。

17)図書館業務システムはネットワークを配し、4キャンパス間で図書館業務を一括して運用している。資料の貸出返却等は各キャンパスどこからでも可能である。附属病院からも図書館ホームページを利用できるようネットワークが構築されている。

18)図書館ホームページからアクセスできる雑誌および電子ジャーナルは、海外21社、国内6社と契約している。

19)Webを介してのデータベースは、「PubMed」、「医中誌Web」、「CiNii」、「Web of Science」、「JCR Web」、「Cochrane Library」、「ClinicalKey」、「ASCO Univ. Virtual Meeting」、「UpToDate Web」、「メディカルオンライン」、「メディカルファインダー」、「今日の診療Web版」、「最新看護索引Web」、「CINAHL Plus」、「SPORTDiscus」、「Procedures CONSULT」等が利用できる。そして、「Harrison's Online」をはじめ約3,000冊の自然科学分野の電子ブックが利用でき、文献管理ソフト「EndNote Web」、「RefWorks」も導入されており、学術情報への環境が整備されている。

20)資料の相互貸借サービスは、国立情報学研究所NIIのNACSIS-ILLに参加し、文献の入手と提供に努めている。文献複写サービスは、関連病院や卒業生、小規模病院からの受け付けはFAXでの申し込みに対応し提供している。

21)2013(平成25)年度の国内外の教育研究機関との相互利用状況は、次表のとおりである。

キャンパス	依頼件数	受付件数
本郷	2,126	2,823
さくら	330	290
浦安	439	136
三島	106	11

22)文京区の4医科大学間(東京大学、東京医科歯科大学、日本医科大学、順天堂大学)では、相互協力協定を締結し相互に情報サービスの円滑化を図っている。

第7章 教育研究等環境

23)本郷キャンパスでは、2011(平成 23)年より機関リポジトリを構築し、学位論文の要旨をインターネット上に公開している。

(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【評価の視点】

- ・ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
- ・教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

〈1〉 大学全体

1) 本学は、大学院研究科に在籍する学生のうち成績優秀な者を、本学の学部学生や修士課程の学生に対する授業等におけるティーチング・アシスタントとして雇用している。この制度は、授業の質の向上、将来の大学教員の養成及び大学院生の経済的支援の3つの観点から設けられたものである。2011(平成 23)年度は27人、2012(平成 24)年度は36人、2013(平成 25)年度は33人を任用している。

(資料7-11 順天堂大学ティーチング・アシスタントに関する規程)

2) リサーチ・アドミニストレーターとは、競争的資金の獲得・管理を中心として、産学連携や法規制対応等を含めた研究の管理を行う専門職のことである。平成 21 年版科学技術白書において、米国の研究開発システムの優れた点としてリサーチ・アドミニストレーターの存在が取り上げられ、2011(平成 23)年に文部科学省が開始した「リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保するシステムの整備」事業を契機に、日本の各大学への導入が進んだ。本学においても2012(平成 24)年の8月より、年俸制契約職員としてリサーチ・アドミニストレーター2名を雇用し、研究者が研究に専念できる環境の実現を目指している。なお、本学では順天堂大学リサーチ・アドミニストレーターのアルファベット頭文字からJURAと略称している。(資料7-12 順天堂だより No. 267pp. 13-15)

3) 申請に基づき審査を経て交付される学内公募型の研究費として2001(平成 13)年度から学長特別共同プロジェクト研究費を交付している。本研究費は、学部・研究科間の学際的な共同研究を促進することを目指しており、研究組織に必ず他学部・他研究科の教員を含むように条件を課している。また、研究代表者の職位により審査区分を分け、前任准教授・准教授・講師を対象とした区分をA枠(1件60万円以内)、助教・助手・大学院生を対象とした区分をB枠(1件40万円以内)とし、公平な競争が行われるよう一定の配慮を行っている。さらに2012(平成 24)年度から女性研究者の育成の観点から申請資格を女性に限定した女性研究者枠(1件60万円以内)を設けた。申請、採択状況は次のとおりである。

(金額単位：千円)

区分	2011(平成 23)年度			2012(平成 24)年度			2013(平成 25)年度		
	申請数	採択数	配分金額	申請数	採択数	配分金額	申請数	採択数	配分金額
A 枠	28	11	6,600	11	4	2,400	8	3	1,800
B 枠	32	13	5,200	34	11	4,400	23	11	4,350
女性枠				17	9	5,400	24	9	4,400
合計	60件	24件	11,800	62件	24件	12,200	55件	23件	10,550

第7章 教育研究等環境

4) 全学的な視点から教育の内容及び体制の改善等の教育改革に取り組む優れたプロジェクトを支援するために、2013（平成 25）年度に学長教育改善プロジェクト費を新設した。本プロジェクトの予算は学長裁量経費として別枠で確保し、学内の公募により集めた 8 件の提案のなかから、優れた改善効果が期待される 6 件の提案を採択した。

（資料 7-13 平成 25 年度 学長教育改善プロジェクト費の募集選考要項）

5) 研究者主導型臨床研究の支援を行うため、「臨床研究センター」を設置しており、「順天堂大学臨床研究センター運営内規」を整備している（資料 7-14）。生物統計専門家、データマネージャー、CRC（Clinical Research Coordinator）などの人員を擁して、教育研修、統計支援、データ管理などを行っている。教育研修においては、学部・大学院での講義を通じて研究者主導試験に携わる医師・コメディカル・看護師に対する生物統計に関する教育、統計的コンサルティングを行っている。

〈2〉 医学部・大学院医学研究科

1) 医学研究科には、特定の専門分野に特化し、高度な教育と研究の機能を有する附属研究所として、アトピー疾患研究センター（1998（平成 10）年開設）、老人性疾患病態・治療研究センター（2000（平成 12）年開設）、環境医学研究所（2002（平成 14）年開設）、感染制御科学研究センター（2003（平成 15）年開設）、スポーツロジックセンター（2007（平成 19）年開設）の 5 つの研究所が設置されている。各研究センターには専任の教員を配属し、教員と共同して研究プロジェクトを推進するポスト・ドクターや教員の指示のもとに研究を補助するリサーチ・アシスタントの受け入れを積極的に行っている。

（資料 7-15 平成 25 年度事業報告書 「3. 大学院附属研究センター及び大学附属研究センター」）

2) 先端的教育・研究の支援活動を行う学内共同利用施設として、疾患モデル研究センター（1998（平成 10）年開設）、研究基盤センター（2003（平成 15）年開設）の 2 つの研究支援センターが設置されている。疾患モデル研究センターは、医学研究及び医学教育に欠かせない動物実験を行う施設として整備され、動物の種類に応じ特定飼育区画・特定網室の拡散防止措置を設けるなど適切な管理体制が敷かれている（資料 7-16 順天堂大学動物実験等管理規則）。研究基盤センターは、研究支援機能を持った中核施設として位置付け、異分野の研究者が協力し、幅広い視野にたった目的・目標を立て学際的なテーマで学問・研究を発展させていく場となるよう、また多様な研究分野に対する支援と研究成果を社会へ還元する発信基地として整備されている。（資料 7-7 研究施設の概要 2013）

3) 教員が個人で行う研究を助成するための基礎的研究費として、学内研究費という予算名で、2011（平成 23）年度は 251,870 千円、2012（平成 24）年度は 257,770 千円、2013（平成 25）年度は 259,003 千円を各講座・各研究室に配分している。予算配分の方法は、固定予算として 1 講座に対し 2,800 千円、1 研究室に対し 1,400 千円を配分し、変動予算として講座・研究室に在籍している大学院生数に 200 千円を乗じた額と研究生数に 20 千円を乗じた額を固定予算に加える方式を採用している。

4) 教員の研究室は、個室 52 室、共同 129 室を有しており、教員 1 人あたり 13.28 m²の面積が確保されている。教授には研究室として個室が与えられ、それ以外の教員は共同の研究室としている。（資料 7-17 研究室（個室・共同）一覧）

5) 教員の教育、研究、診療、運営管理への時間配分について、今まで体系的な調査を行って

第7章 教育研究等環境

ないが、平均的な臨床系の教員は週2回外来を担当し、学部・研究科の学生に対する講義・研究指導を行い、さらに会議等の運営管理に参加し、その合間に研究時間を捻出している。この現状を踏まえ教員が十分な研究時間を確保できるように、組織的な研究支援活動の一環としてリサーチ・アドミニストレーターが外部資金の申請手続きを補助している。

- 6) 教員が所属講座以外の教員と研究組織を編成し、特定の研究課題に対し共同で行う研究を支援するため、医学部共同プロジェクト研究費という研究助成制度を設けている。本制度は申請に基づき審査を経て交付される学内公募型の研究費として位置付けられ、採択された研究プロジェクト1課題に対し60万円以内の研究費が配分される。また、本制度への応募資格を40歳以下とすることにより若手研究者の自立を支援し、本学の学術研究レベルの底上げを図っている。申請、採択状況は次のとおりである。

(金額単位：千円)

2011 (平成 23) 年度			2012 (平成 24) 年度			2013 (平成 25) 年度		
申請数	採択数	配分金額	申請数	採択数	配分金額	申請数	採択数	配分金額
102	34	20,000	121	35	20,400	118	41	20,200

- 7) 研究プロジェクト等に博士課程学生をリサーチ・アシスタント (RA) として参画させ、研究活動の効果的かつ円滑な推進を支援するとともに大学院生の研究遂行能力の育成を図っている。

〈3〉スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 本学部においては、助教9名、助手5名の他に非常勤助手24名が各研究室で実験・実習、実技の補助業務を行っている。情報処理の補助業務は、パートタイムの技術スタッフを配置している。
- 2) 実技・実習科目では、50人を超える規模のクラスに対して、大学院生によるティーチング・アシスタント (TA) を1名採用できることとしている。これにより、安全面に配慮しながら、学生一人一人の技術習得を支援しやすい授業体制を整えている。2013 (平成 25) 年度の TA として、本研究科の大学院生27名を採用している。
(資料7-18 平成23・24・25年度TA申請者一覧)
- 3) 大学院博士後期課程に在籍し、スポーツ健康医科学研究所に関係する研究を行っている学生をリサーチ・アシスタント (RA) として採用している。2013 (平成 25) 年度の RA は、継続3名、新規5名、合計8名である (資料7-19 平成25年度RA一覧)。
- 4) 本学部専任教員の研究費については、各年度の予算配分に基づき支給されている。2013 (平成 25) 年度は、総額21,675,000円、教員一人当たり338,671円である。本研究科博士前期課程は総額5,100,000円、博士後期課程は総額2,000,000円であり、配分は指導担当学生数によっている。
(資料7-20 平成25年度研究費配分)
(資料7-21 平成25年度大学院博士前期課程予算配分)
(資料7-22 平成25年度大学院博士後期課程予算配分)
- 5) 学内共同研究費は、「順天堂大学スポーツ健康科学部共同研究規程」(資料7-23)に基づき、一研究あたり上限300万円 (研究期間3年以内) を目安に採択されている。
(資料7-24 平成23・24・25年度学内共同研究採択一覧)
- 6) 研究活動に必要な研修機会確保のため、学会旅費や国外出張旅費を研究費とは別に設けてい

第7章 教育研究等環境

る。

7) 教員研究室は70室あり、教員一人あたり27㎡の面積が確保されている。

8) 教員の研究時間の確保に向け、授業時間割および定例会議の開催日時を工夫し、出来る限り研究に専念出来る時間を確保するよう努めている。

〈4〉 医療看護学部・大学院医療看護学研究科

1) 個人研究費は、教授34万円、先任准教授31万円、准教授29万円、講師27万円、助教25万円を分配している（平成25年度）。また、医療看護学研究科・医療看護学部の共同研究費助成は、研究活動を本学の他学部の研究者や他学の研究者とともに行うことによって、研究課題の多様化や深化をすすめるために創設され、2011（平成23）年度は25件（1,108.7万円）、2012（平成24）年度は30件（1,157.1万円）、2013（平成25）年度は31件（1,181.8万円）が採択されている。

2) 奨励研究助成は、本学部内の若手研究者（助教）の研究活動を活性化するために創設されたものであり、2011（平成23）年度は12件（114.4万円）、2012（平成24）年度は10件（81.9万円）、2013（平成25）年度は7件（63.5万円）が採択されている。

3) 教員の研究時間の確保は、教育、研究、学部行事等の時間配分に左右されることから、学部長における適切で公平な裁量により可能な限り研究時間の確保に努めている。学部行事の運営においても、教授会の定例開催日を第3水曜日とするなど、各委員会を含めて、教員が予定を立てやすいように配慮している。

4) ティーチングアシスタント（TA）は大学院生に学部生の教育に携わる機会を提供することにより、今後の学習や研究を深めるための貴重な経験となるだけでなく、学部教育の質の向上に繋がっている。採用は2011（平成23）年度は0名であったが、2012（平成24）年度は7名、2013（平成25）年度は3名となっている。

〈5〉 保健看護学部

1) 教員の研究環境については、個人研究費として教授24万円、先任准教授22万円、准教授22万円、講師20万円、助教18万円を配分している以外に以下に述べるように、ハード面のみならずソフト面での充実を図っている。

2) 採択制共同研究費として、100万円の予算を確保し、研究力の底上げを図っている。また、研究成果公表の場として、研究委員会主催の研究発表会を開催している。

（資料7-25 順天堂保健看護研究会ポスター）

3) 教員の研究活動を奨励するために、文部科学省科学研究費補助金未申請者には、翌年度の個人研究費を1割カットすることにしてしている。反対に、外部研究費獲得に努力したと認められる教員に対しては、研究奨励費を追加配分し、そのことを全教員に公表している。

4) 教員の研究時間の確保は、教育、研究、学部行事等の時間配分に左右されることから、学部長における適切で公平な裁量により可能な限り研究時間の確保に努めている。学部行事の運営においても、教授会の定例開催日を第3火曜日とするなど、各委員会を含めて、教員が予定を立てやすいように配慮している。

5) 研究活動に必要な研修機会確保のため、国内・外における学会への参加を奨励し、また、病院の指導者を交えた研究会などを活発に行えるよう、キャンパス施設の無料使用を認めるなどのサポートをしている。

6) 学長共同プロジェクト研究費のほか、前述の採択制共同研究費及び他学部の研究奨励制度を

利用した共同研究を推進している。

(5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

【評価の視点】…評価の視点を参考にして記述してください。

- ・ 研究倫理に関する学内規程の整備状況
- ・ 研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性

〈1〉 大学全体

1) 本学は、学術研究活動を行う上で研究者として守るべき行動の基準を明らかにし、自律的な行動を促すため「順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範」を制定している。学生を含むすべての研究者に対し、この規程において自らの主体的な判断に基づく研究活動は、社会からの信頼と負託を前提として初めて社会的認知を得ることを理解させ、科学技術の発展には社会との対話が不可欠であるとし研究者に科学と社会との健全な関係構築を促している。(資料7-26 順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範)

2) 「順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範」において示された倫理的基準を逸脱した行為が研究者に認められた場合、大学として取るべき手続きと再発防止への取組を定めた規程として、「順天堂大学における学術研究活動に係る不正行為の防止等に関する規程」を制定している。

(資料7-27 順天堂大学における学術研究活動に係る不正行為の防止等に関する規程)

3) 産学連携に伴い生じる利益相反とは、専門家としての判断が必要な場面で、研究者が個人的な利益を優先し、研究成果の信頼性が損なわれる状態にあることを言う。利益相反状態は日常的に生じうるものであり、完全に解消されることは難しく、むしろ適切に管理することが重要だと言われる。したがって、本学では研究者に利益相反の開示・報告を義務付け、利益相反マネジメント委員会により検討・審議を行う体制を構築している。

(資料7-28 順天堂大学利益相反マネジメント規程)

4) 臨床研究においては、被験者の福利に対する配慮が科学的及び社会的利益よりも優先されなければならないことから、国が定めた倫理指針に基づき研究機関の倫理審査委員会が研究計画の適否について判断しなければならない。本学では、医学部に「順天堂大学医学部研究等倫理要綱」(資料7-29)、「順天堂大学医学部研究等倫理要綱実施規程」(資料7-30)、スポーツ健康科学部に「順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱」(資料7-31)、「順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱実施規程」(資料7-32)、医療看護学部及び保健看護学部に「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」(資料7-33)、医学部附属病院に「順天堂大学医学部附属病院倫理委員会内規」(資料7-34)を定め、各部門で倫理委員会を開催し事前審査を行うことにより、倫理的妥当性や安全性を確保している。

〈2〉 医学部・医学研究科

1) 研究倫理を遵守するために、入学後、基礎教育をはじめとする授業を開催するなど必要な措置をとっている。(資料7-35 医学研究入門Ⅰ)

2) 医学部では、学術研究活動に関する行動規範について説明し、研究ノート等の活用により、研究・調査データを記録保存するとともにデータの厳正な取扱いを徹底し、不正行為(ねつ造・改ざん・盗用等)の防止に努めている。

第7章 教育研究等環境

- 3) 医学部の研究者等が行う研究等について、「医学部研究等倫理要綱」に基づき、医学部研究等倫理委員会及び医学部附属病院倫理委員会を設置し、医学部長又は、病院長に申請のあった研究等の内容について厳正な審査を行っている。
- 4) 「疫学研究に関する倫理方針」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」等に則り計画された研究及びヒトへの適応データのない研究については医学部研究等倫理委員会において審査し、「臨床研究に関する倫理指針」に則り計画された研究については医学部附属病院倫理委員会において審査を行なっている。
- 5) 大学院では修士課程1年次において「医学と社会医療Ⅰ（医療倫理学）」を必修科目として開講するとともに、博士課程における必修科目であるUnit1において、1年次Basic Courseでは「研究を始めるにあたっての注意点」や「医療とリスクマネジメント」、2年次Advanced Courseでは「生命・医療倫理（学）」等の講義を実施している。また、平成24（2012）年4月に「順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン」を制定し、大学院における研究倫理の普及・啓発を図っている。

（資料7-36 一般教育科目「医学と社会医療Ⅰ（医療倫理学）」）

（資料7-37 Unit1「Basic Course」）

（資料7-38 Unit1「Advanced Course」）

（資料7-39 順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン）

〈3〉 スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱（資料7-31）、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱実施規程（資料7-32）、順天堂大学スポーツ健康科学部研究等倫理要綱（資料7-40）、順天堂大学スポーツ健康科学部研究等倫理要綱実施規程（資料7-41）を整備している。
- 2) スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科では、学識経験者（学外）2名を含めた倫理審査委員会を置いている。スポーツ健康科学部では2011（平成23）年から2013（平成25）年まで委員は10名、スポーツ健康科学研究科では、8名である。
- 3) 2012（平成24）年度から、スポーツ健康科学部とスポーツ健康科学研究科の双方より担当倫理委員を選出しているが、倫理審査等の業務においては、学部・研究科の区別をなくしている。また、倫理委員会委員長は学部・研究科とも同一人物が行うことにより迅速な審査等を行っている。
- 4) 審査件数としては、2011（平成23）年度は、学部35件、大学院72件、2012（平成24）年度は、学部28件、大学院75件、2013（平成25）年度は、学部18件、大学院57件であった。

（資料7-42 平成23・24・25年度倫理審査申請件数一覧）

〈4〉 医療看護学部・大学院医療看護学研究科

- 1) 研究等倫理委員会を設置して、外部委員を含む審査の体制を整備している。委員構成は、医療看護学部専任教員3名、浦安病院教授1名、学外の倫理の専門家1名である。
- 2) 委員会の審議状況は、医療看護学研究科開設以降、審査件数が増えている。

年度	実施計画		成果の公表		変更申請		申請数
	教員	大学院生	教員	大学院生	教員	大学院生	
2011（平成23）年	27	20	1	0	2	0	50
2012（平成24）年	27	11	3	0	4	1	46

第7章 教育研究等環境

2013（平成25）年	27	19	2	0	3	2	53
-------------	----	----	---	---	---	---	----

（医療看護学部研究等倫理申請数過去3年間の推移）

- 3) 「順天堂大学医療看護学部研究等倫理規程」を改正し、大学院医療看護学研究科、医療看護学部、保健看護学部共通の「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」を制定した（平成25年11月1日施行）。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 学術研究活動に係る倫理規範が遵守されるよう「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」が定められている。（資料7-33）
- 2) 教員の研究に関する倫理審査は、学外委員を含めた「研究等倫理審査委員会」において厳格に実施されている。委員会委員の構成は、本学部教員4名、学外委員2名である。

2. 点検・評価

[基準7]

大学は、学生の学修ならびに教員による教育研究活動を必要かつ十分に行えるよう、学習環境や教育研究環境を整備し、これを適切に管理運営しなければならない。

●基準7の充足状況

大学キャンパス・ホスピタル再編事業が順調に進捗している。大学の校地・校舎面積は大学設置基準を満たし、建物の耐震化も進んでいる。ラウンドシェル型教室、形態系実習室、ラーニングコモンズ等の整備も行われた。「順天堂大学 ICT 化戦略」に基づき ICT 化教育基盤整備が進められ、図書館、学術情報サービスも充実が図られ、学生・教員の利便性を向上させている。

文部科学省の補助金を活用して、最先端の装置・設備を導入しており、持続的に教育研究成果を生み出せるようにしている。URA 等の研究支援専門職を配し、研究者が研究に専念できる環境を整備している。TA や RA も雇用されており、教育研究支援体制の整備が進められている。各種プロジェクト研究が公募され、共同研究を推奨する仕組みが出来ている。研究倫理に関する各種規程が整備され、学内審査が適切に運営されている。以上のことから、基準を満たしている。

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

《大学キャンパス・ホスピタル再編事業について》

- 1) 大学キャンパス・ホスピタル再編事業は、2013（平成25）年度で6年を経過したが、当初方針の通り原資を手元資金で賄うことにより、財務状況に影響を与えることなく順調に推移している。本郷キャンパスにおいては、1号館・4号館・B棟・C棟・D棟を「病院ゾーン」、10号館・A棟を「研究・実習ゾーン」、センチュリータワー・第2教育棟を「教育ゾーン」に位置づけ、計画通り整備事業が行われており、延床面積は、昭和62年の本館（1号館）建設前に比し、平成26年度には、3倍となる予定である。

（資料7-43 本郷キャンパス再編事業構想図）

（資料7-44 本郷キャンパス延床面積の推移）

《施設・設備の維持管理について》

- 1) 積極的な省エネ投資計画を実施中であり、単位床面積当たりのCO₂の過去5年平均排出量は減少している。

第7章 教育研究等環境

(資料7-45 設備投資によるCO₂削減計画)

(資料7-46 過去5年間のエネルギーの使用に係る原単位の変化状況)

- 2) 建物の更新により本郷キャンパスの旧耐震建物(当初4棟)は、全12棟中の2棟を残すのみとなり、耐震化対応が進められている。

(資料7-47 主要建物の耐震化更新(本郷キャンパス、過去3年間))

《教育研究環境の整備について》

- 1) 競争的資金の獲得戦略の立案、補助金の申請書作成、研究成果の広報等の業務を研究者と連携して行うリサーチ・アドミニストレーター職の導入は、研究者の研究活動時間の確保と科学研究費助成事業をはじめとした公的研究費等の外部資金の獲得に効果を発揮している。
- 2) 臨床研究センターでは、2009(平成21)年度から2012(平成24)年度にかけて開始された研究者主導型臨床研究の推進を支援し、登録症例を集積している。

(資料7-48 支援study一覧)。

《ICT教育研究基盤整備について》

- 1) 「順天堂大学ICT化戦略」に沿って、2009(平成21)年度取得のセンチュリータワーを本郷キャンパスにおける教学部門の拠点として、順天堂大学4キャンパスおよび医学部附属6病院が海外へ向けて教育・研究・医療の情報発信が行えるよう、遠隔講義システムを継続して整備した。この積極的な取り組みにより、順天堂内外・国内外へ向けた教育・研究・医療の情報交流および発信の機会が増えるという効果が表れている(資料7-49 順天堂遠隔会議実施実績)。また、本郷キャンパス、さくらキャンパス、浦安キャンパスに大学教職員および学生の情報交流促進のためのポータルサイトであるポータルサイトシステムを導入した。その結果、教職員・学生間の連携が促進され、窓口対応負荷も軽減されて業務効率化に繋がった。

(資料7-50 ポータルサイト・ポータルサイトシステム実績)

〈2〉 医学部

- 1) 最先端の教育研究環境を整備することにより、クリッカー等を用いた学生の習熟度の把握が行われている。また、実習においては、最新の研究に触れる機会も多い。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 2014(平成26)年3月グループ学習・自己学習効果を高めることを目的として、図書館2階に、ラーニング・コモンズスペースを整備し、1階図書館会議室をグループルームとした。
- 2) TAに対する授業評価(教員評価、自己評価、学生へのアンケート)を導入し、TA自身にその結果をフィードバックし、教育活動に生かすことができるようになった。
- 3) 学部・研究科の区別をなくして倫理審査等の業務を行っているほか、学部・研究科とも同一人物が倫理委員会委員長を兼務することにより、迅速な審査を行う体制が整いつつある。

〈4〉 医療看護学部

- 1) マルチメディア教室のパソコンを81台から102台に増設しスペックも最新のものに更改し、授業で全員にパソコンを割り当てることができるようにした。またシンクライアントシステムを導入したことにより履修者によってパソコン環境をスムーズに切替えることができるようになった。ICT環境上にバーチャル・リアリティ空間を作成し、遠隔会議シ

第7章 教育研究等環境

システムと組み合わせで、学生全員が討議に参加できるグループ演習システムを構築した。これにより遠く離れた実習地間でお互いにコミュニケーションをとることで、迅速な問題解決や学びの共有が出来るようになった。

- 2) 2014 (平成 26) 年 4 月、大学院医療看護学研究科博士課程開設及び修士課程の三島キャンパスでの開講に向けて、「順天堂大学医療看護学部研究等倫理実施規程」を見直し、「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」として制定した。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」が制定されたことにより、申請する側、審査する側に明確な指標ができた (資料 7-33)。

〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 2012 (平成 24) 年度、文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の採択に伴い、2013 (平成 25) 年度、基礎研究から臨床への橋渡し研究の支援、臨床研究の立案・計画書の作成指導及びコンサルティング等を行う「先導的がん医療開発研究センター」を新設した。また、2013 (平成 25) 年度には、ゲノム医科学と再生医学に関する基礎研究の新知見を医療へと還元させるための探索的臨床研究及び臨床的問題点の解決のため「ゲノム・再生医療センター」を新設した。これらの研究センターの新設により、大学院における教育研究環境の整備が推進されている。
- 2) 2012 (平成 24) 年に「順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン」を制定し、普及・啓発を図っている (資料 7-39)。

〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 学内共同研究の申請枠を大学院博士後期課程の学生 (RA 含む) にも広げたことにより、学位取得に向けた研究の進展に寄与している。

〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 2014 (平成 26) 年 4 月、大学院医療看護学研究科博士課程開設及び修士課程の三島キャンパスでの開講に向けて、「順天堂大学医療看護学部研究等倫理実施規程」を見直し、「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」として制定した。

②改善すべき事項

〈1〉 大学全体

〈施設・設備の維持・管理について〉

- 1) 障がいの有無にかかわらず、等しく学び、充実した学生生活を送ることができる環境整備が必要であると考えている。車いす対応の動線整備、トイレ環境の充実、バリアフリーマップの整備公表などが当面の具体的課題である。

〈教育研究環境の整備について〉

- 1) 臨床研究センターで支援している研究者主導型臨床研究のうち 2012 (平成 24) 年度に開始した研究では症例登録数の鈍化がみられる (資料 7-51 患者登録数推移)。

〈ICT 教育研究基盤整備について〉

- 1) 教職員による ICT 利活用が十分でないことが課題である。一例として、紙資料ベースの講義形態が多く、モバイル、ペーパーレス対応として導入した資料配布システムの活用がま

第7章 教育研究等環境

だ十分に進んではない。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 助教の数が増えたことで、教員1人当たりの研究費は実質的に減少してきている。研究活動の活性化と外部資金の獲得が求められる。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」に規定されている倫理審査委員構成員のうち、医学部教員が構成員に加わっていない。

〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 昨今の研究不正事案等を受け、現在実施している講義に加え、研究倫理について体系的に学習する機会を提供する必要がある。

〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) スポーツ健康科学の対象範囲が広がり、学生の研究テーマが従来以上に多岐に亘りつつあることから、専門の異なる複数の教員による指導を円滑に行える体制を整備する必要がある。

〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 2014（平成26）年4月、大学院医療看護学研究科（修士課程）を三島キャンパスにおいて別地開講できるようにテレビ会議システムを整備する必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

《大学キャンパス・ホスピタル再編事業について》

- 1) 今後、本郷地区では、B棟低層棟・C棟・A棟の建築が予定されている。今まで通り、再編事業の方針に基づき着実に計画を推進する。

《施設・設備の維持・管理について》

- 1) 省エネを更に推進するために、PDCAサイクルに基づく検証を行っている。細部にわたる実施検証データを基に計画の再検討を行い、投資効果の最適化を図る。
- 2) 残りの旧耐震建物2棟についても、2014（平成26）年度以降に順次更新することが決定しており、キャンパス全体の本学所有建物の耐震化を数年以内に完了させる。
（資料7-47 主要建物の耐震化更新（本郷キャンパス、過去3年間））

《教育研究環境の整備について》

- 1) 本学の研究力が徐々に強化されてきた背景には、基礎的・基盤的研究への地道な財政支援と人的支援の存在がある。財政支援は、一律配分型の学内研究費と学内公募型のプロジェクト研究費により行われ、人的支援はリサーチ・アシスタントやポスト・ドクター等の研究補助者の採用により行われてきた。今後は、リサーチ・アドミニストレーターの人数を増やし、助成金募集情報の提供や申請書作成支援に加え、イノベーションの担い手となる若手研究者の発掘や大型プロジェクトの企画立案により一層注力するなど、人的支援を拡充していく。
- 2) 臨床研究センターで支援している研究者主導型臨床研究については、研究会等の開催、ニュースレターの発行により研究登録状況等を報告している。症例数が目標に達した時点

で統計的解析等を行い、学会・論文発表を支援して行く。

《ICT 教育研究基盤整備について》

- 1) 遠隔システムの臨床現場への適用を積極的に図っていく。手術室やカンファレンス室から最先端医療を発信する環境を整備していく。これにより学生教育用コンテンツの蓄積にもつながる。ポータルフォリオシステムについては、他キャンパスへの展開を図り、教職員業務の更なる効率化を図っていく。

〈2〉 医学部

- 1) 今後、更なる双方向講義の実施に向けて、e-learning の導入・活用を推進していく。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 図書館のラーニング・コモンズスペース、グループルーム活用法を周知し、学習効果を高める取組みを行う。
- 2) TA に対する学生の授業評価による結果では、その効果が概ね認められている。今後も継続することにより、TA の大学教育に関する専門知識の習得や教育技能の向上を図る。
- 3) 研究倫理の申請を一本化したことにより、研究倫理の意義や重要性が浸透しつつある。今後、自然系のみならず、社会系の研究における倫理申請の徹底を図る。

〈4〉 医療看護学部

- 1) 引き続き、ICT 教育環境の整備を進め、教員 FD とともに ICT を駆使した教育により、一層の教育効果をあげられるようにする。
- 2) 「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」に基づき、スムーズな倫理審査を行い、研究活動を活性化させる。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」に基づき、スムーズな倫理審査を行い、研究活動を活性化させる。

〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 引き続き、既存の研究施設も含め、学内の研究施設が適切に活用されるよう、利用ルールとあわせて周知を図っていく。
- 2) 「順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン」について、昨今の研究不正事案等を踏まえた改定を図るとともに、更なる周知徹底を図る。

〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 学内共同研究の申請枠を大学院博士後期課程の学生（RA 含む）にも広げたことにより、大学院生による学内共同研究への応募が格段に増加した。継続して、若手研究者の共同研究を推奨し、学外の競争的資金獲得や学術論文投稿の増加につなげていく。

②改善すべき事項

〈1〉 大学全体

《施設・設備の維持・管理について》

- 1) バリアフリー対策チームを編成し、施設ラウンドを実施する。バリアとなっている場所を特定し、順次施工する。

《教育研究環境の整備について》

- 1) 臨床研究センターで支援している研究者主導型臨床研究のうち症例登録数の鈍化がみら

第7章 教育研究等環境

れる研究については、研究会等やニュースレターならびに施設直接訪問やメールを通じて登録数の増加、新たな参加施設の獲得を目指す。

《ICT 教育研究基盤整備について》

- 1) 大学の講義環境のモバイル化、ペーパーレス化を図るために、既存の資料配布システム等の教職員による利活用を広報活動によって推進していく。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 外部資金獲得に向けた講習会やセミナーを引き続き開催し、外部資金獲得を促進する体制を更に強化する。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」に規定されている倫理審査委員構成員のうち、医学部教員を構成員に加える。

〈6〉 大学院医学研究科

- 1) CITI JAPAN の研究倫理教材（日本（CITI Japan Program）と米国（CITI: Collaborative Institutional Training Initiative）の2つのNPO 団体が協力して作成する、研究者の行動規範教育に関する e-learning プログラム）の活用等、研究倫理について体系的に学ぶことができるカリキュラムの導入について検討する。

〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 学生の分野横断的な研究テーマの指導に対応するため、専門の異なる教員による共同研究体制の構築・整備を行い、学生指導の円滑化と研究成果の底上げを図る。

〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 2014（平成26）年4月、大学院医療看護学研究科（修士課程）を三島キャンパスにおいて別置開講できるようにテレビ会議システムを整備する。

4. 根拠資料

- 資料7-1 順天堂ホームページ 「順天堂医院新病棟がオープン～安全面、環境面に高い先進性～」
- 資料7-2 平成25年度予算編成方針
- 資料7-3 順天堂大学 ICT 化戦略
- 資料7-4 平成23年度事業報告書 「22. 創立175周年記念事業について」
- 資料7-5 平成24年度事業報告書 「21. 創立175周年記念事業について」
- 資料7-6 平成25年度事業報告書 「19. 大学キャンパス・ホスピタル再編事業計画について」
- 資料7-7 研究施設の概要 2013 (既出 資料2-3)
- 資料7-8 平成23・24・25年度教育・研究装置及び教育基盤・研究設備一覧
- 資料7-9 教育機器の使用に関する申し合わせ事項
- 資料7-10 大学基礎データ 表18 「図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況」
- 資料7-11 順天堂大学ティーチング・アシスタントに関する規程 (既出 資料3-29)
- 資料7-12 順天堂だより No.267 pp.13-15
- 資料7-13 平成25年度 学長教育改善プロジェクト費の募集選考要領
- 資料7-14 順天堂大学臨床研究センター運営内規
- 資料7-15 平成25年度事業報告書 「3. 大学院附属研究センター及び大学附属研究センター」
(既出 資料2-2)
- 資料7-16 順天堂大学動物実験等管理規則
- 資料7-17 研究室 (個室・共同) 一覧
- 資料7-18 平成23・24・25年度 TA 申請者一覧
- 資料7-19 平成25年度 RA 一覧
- 資料7-20 平成25年度研究費配分
- 資料7-21 平成25年度大学院博士前期課程予算配分
- 資料7-22 平成25年度大学院博士後期課程予算配分
- 資料7-23 順天堂大学スポーツ健康科学部共同研究規程
- 資料7-24 平成23・24・25年度学内共同研究採択一覧
- 資料7-25 順天堂保健看護研究会ポスター
- 資料7-26 順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範
- 資料7-27 順天堂大学における学術研究活動に係る不正行為の防止等に関する規程
- 資料7-28 順天堂大学利益相反マネジメント規程
- 資料7-29 順天堂大学医学部研究等倫理要綱
- 資料7-30 順天堂大学医学部研究等倫理要綱実施規程
- 資料7-31 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱
- 資料7-32 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱実施規程
- 資料7-33 順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程
- 資料7-34 順天堂大学医学部附属病院倫理委員会内規
- 資料7-35 医学研究入門 I
- 資料7-36 一般教育科目「医学と社会医療 I (医療倫理学)」
- 資料7-37 Unit1「Basic Course」

第7章 教育研究等環境

- 資料7-38 Unit1「Advanced Course」
- 資料7-39 順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン
- 資料7-40 順天堂大学スポーツ健康科学部研究等倫理要綱
- 資料7-41 順天堂大学スポーツ健康科学部研究等倫理要綱実施規程
- 資料7-42 平成23・24・25年度倫理審査申請件数一覧
- 資料7-43 本郷キャンパス再編事業構想図
- 資料7-44 本郷キャンパス延床面積の推移
- 資料7-45 設備投資によるCO₂削減計画
- 資料7-46 過去5年間のエネルギーの使用に係る原単位の変化状況
- 資料7-47 主要建物の耐震化更新（本郷キャンパス、過去3年間）
- 資料7-48 支援 study 一覧
- 資料7-49 順天堂遠隔会議実施実績
- 資料7-50 ポータルサイト・ポータルフォリオシステム実績
- 資料7-51 患者登録数推移